聞こえない人々と楽しむ

人形の世界

UKIYOE北斎

手話で見る

傾城阿波の鳴門

2023年
3/19 sunday
15:30〜17:15
徳島県立阿波十郎兵衛屋敷
徳島市川内町宮島本浦184
Tel.088-665-2202 Fax.088-665-3683
awajurobeyashiki@mf.pikara.ne.jp

入場料 1,000円（入館料含む）
※チケット販売・予約受付開始
阿波十郎兵衛屋敷にて2月15日（水）9:30〜
定　員 100名限定
主　催 徳島県手話通訳問題研究会
徳島県立阿波十郎兵衛屋敷
助　成 とくしま文化・未来創造支援費補助金
（公財）徳島県文化振興財団
阿波銀行学術・文化振興財団

ろう者と聴者が共につくる演劇表現の可能性

UKIYOE北斎

「私は絵を描く画狂老人である」
奇才浮世絵師、北斎が舞台に蘇る。

俳優・人形遣い：庄﨑隆志
コントラバス：田嶋真佐雄、田辺和弘

●構成・演出：庄﨑隆志（office 風の器主宰・演出家・舞台俳優・人形遣い）
●美術・人形制作：穂苅吾朗　●美術監修：安元亮祐（画家）
●美術協力：岡崎千恵　●衣装制作：酒井郁　●舞台協力：HITODE・STAGE
●制作協力：風の市マーケット　●写真撮影：渡辺伸司

手話で見る

傾城阿波の鳴門

「父さんの名は十郎兵衛、
母さんはお弓と申します」

太夫：竹内雅代
三味線：鶴澤友輔
人形：阿波人形浄瑠璃研究会青年座
手話：徳島県手話通訳問題研究会

お問い合わせ／徳島県立阿波十郎兵衛屋敷
徳島市川内町宮島本浦184Tel.088-665-2202 Fax.088-665-3683 awajurobeyashiki@mf.pikara.ne.jp

聞こえない人々と楽しむ
ろう者と聴者が共につくる演劇表現の可能性

ろう者特有の日常生活におけるコミュニケーション手段は、ろう者の言語である『手話』です。手話は「観るコトバ」の表現であり、「観るカラダ」の表現、「観るモノ」の表現、「観るオト」の表現でもあります。
———これらの特有の文化は、ろう者の生活環境から生まれました。
そして、ろう者の視覚的に優れた表現を聴者の芸術と融合した舞台を創造し、今まで観たことのない芝居を、多くの人たちに観ていただきたいと思います

UKIYOE北斎

コトバ<台詞>に頼りません。原作である葛飾北斎、喜多川歌麿などによって吟味された「想像」「視覚」を尊重し、それらを「再構成」する形をとります。「富嶽三十六景」の登場人物をあらゆる衣装・道具を使い、俳優が演じていきます。さらに近松門左衛門、鶴屋南北の世界へと広がりを持っていきます。浮世絵と遊ぶ中から、江戸文化の豊かで人間臭くて生き生きした魅力が伝わります。

庄崎 隆志

演出家、劇作家、淡路島在住。1961 年東京生まれ。コトバや性別、年齢、国境、障害を越えて楽しめることをモットーとし、演劇、日本舞踊など、様々な手法を用いて、視覚的コミュニケーションを追求した舞台を創り出している。
『UKIYOE』『リア王』など数々の舞台の演出・脚本・プロデューサーなどを手掛け、日本では、シアター X 提携公演、横浜赤レンガ倉庫等を代表とした全国各地 780 箇所 2500 ステージ、欧州、米国、韓国、香港、台湾など 14 ヶ国公演を経験。大学、学校、企業などでノンバーバル演劇ワークショップ活動を続けている。

手話で見る傾城阿波の鳴門

手話通訳というイメージの枠に収まらない、人形と手話通訳者が融合する表現によって、
徳島の定番の人形浄瑠璃を、ろう者も聴者も一緒に楽しんでいただきたいと思います。